

知床五湖の利用のあり方協議会（第25回）

<議事録>

1.日時：平成23年12月27日（火） 14:00～16:00

2.場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

3.議題：

- (1) 来年度以降の開園から5月9日までの運用について
- (2) 登録引率者審査部会からの報告・提案について
- (3) その他（本年度園地整備工事について等）

4.配布資料：

- 資料1 利用調整地区運用ルール・認定手数料の見直しスケジュールについて
- 資料2-1 知床五湖登録引率者審査部会（第9回）議事メモ
- 資料2-2 ヒグマ活動期運用の諸課題に対する審査部会対応一覧表
- 資料3 平成23年度知床五湖園地整備工事 計画工程表

参考資料1 知床五湖の利用のあり方協議会（第24回）議事録

参考資料2 エゾシカシャープシューティング実施ポスター

参考資料3 ヒグマ保護管理方針住民説明会開催チラシ

5.議事概要：

環境省：挨拶

環境省：議事次第に従って進めるべきではあるが、時間の関係もあり(1)の「来年度以降の開園から5月9日までの運用について」の議題が長引くと、その後の項目を議論する時間が無くなってしまいうことも考えられる。今回は、(2)・(3)を先に議論した上で、残りの時間を(1)の議題にあてていきたい。

1) 登録引率者審査部会からの報告・提案について

環境省：[資料2の説明]

知床財団：確認だが、ヒグマ活動期のルートで木道に上がるというときは、従来のルートは使わないということで良いか。

環境省：その通りである。併用はせず、高架木道に上がって戻るというルートのみとする。植生保護期の大ループを同じになる。

温泉旅館協働組合：2湖からフィールドハウスへ戻ってくるルートはどうするのか。

環境省：植生保護期の小ループで使うのでそのまま残しておく。歩道を廃止するのではなく、この時は使わないというだけである。ヒグマが出没した時の退避ルートとして使用することもあると思う。

しれとこ・フォーラム21：ルートの案に異論はないが、高架木道を利用するお客様の中に、木道の上だけじゃなく下に降りたい、少しでも地面に降りたい、という声がある。急には無理だとは思いますが、今後可能であれば、地べたに降りることができるような形を考えてもらえたらと思う。

ウトロ地域協議会：部会で上げてきた案については賛成する。

環境省：過去の経緯でいうと、安全性の話はあった。また地上歩道は地上歩道で歩いてもらった方がお客様の満足度は高いのではないかと考えていた。しかし、実施行ってみて、5湖～2湖までしか回れないものよりも、五つ全て回りたいというお客様の声が多かった。

環境省：①について反対意見はないようなので、承認するという事によろしいか。

一同：承認。

環境省：ありがとうございます。では、来年度からこのような形で実施していきたいと思う。それ以外の②～④についてご意見などはあるか。

しれとこ・フォーラム21：①についてだが、高架木道にいるお客様が、遊歩道から高架木道へ上がってくる人を見た場合に、ここは通れるのかと誤解してしまうのではないか。接続するところには誰か監視をする人がいるのか。

環境省：監視はしていない。一方通行となっている。

しれとこ・フォーラム21：高架木道を利用するお客様は、下に降りられないことを知らないと思

う。向こうから人が入ってくるのを見て、行けるものと考えてしまうかもしれない。

環境省：植生保護期も同じような形となっているが、大きな混乱はない。入口のところに掲示をしてある。しかし、少し見づらい部分はある。

しれとこ・フォーラム 21：通常は下に降りないと思うが、向こうからずらずらと人がきているのを見た人が誤解しないかと思う。

環境省：掲示としては、回転ドアの左下に「一方通行」の掲示が一つ、最終展望台の左側に制度説明の看板が設置してある。階段の下にあるドアには、「この先は入れません」という看板を設置している。回転ドアを逆走して、下のドアの掲示を無視した人は入ってしまう。しかし、このドアにもカギがかかっている、内側から外側には開かないようになっている。誰かが地上歩道側から開けない限り入れない。ガイドさんが入ってくる時に、無理矢理に進入する人でないと入れないようにしている。

しれとこ・フォーラム 21：分かりました。

環境省：植生保護期には、登録引率者ではない一般のお客様が上がってくる時に、入ってしまう確信犯はいたようである。基本的には内側から外側には出れないようにしている。ドアノブに覆いをしてそれにカギをかけている。

環境省：②～④までも反対意見はないようなので、来年からはこのような形で進めていきたい。よろしくをお願いします。

2) その他（本年度園地整備工事について）

環境省：[資料3の説明]

エコツーリズム推進協議会：何点かあるが、一つは交通量が増えるということだが、日によって交通量はだいぶ違うと思う。工事の進み方などによっても違うのではないか。

環境省：掘削が始まってからは、掘ったものをトラックに積んで出す、必要なものを持ってくるという形で、恒常的にトラックの行き来があると思う。

エコツーリズム推進協議会：危険な状況がないかや工事の進行状況をガイドに知らせてほしい。ガイドが現場を視察し、その時に何か情報交換をできるような体制を作ってもらいたいと思う。その他として、日曜日にも工事を行うのか。やはり土日にはツアーの利用が多い。その日には音の出ないような工事をするとか、またガイドツアーは一日中五湖を使っている訳ではなく、朝8時半ぐらいに出発し、昼から14時半、15時ぐらいまで五湖の中を歩くことになるので、その間は音を出さないようにするという工夫をしてもらえれば、ありがたいと思う。去年もあったが、除雪に関しては、現地に入るガイドの意見を聞きながら、また相談させてもらいたいと思う。

環境省：相談していきたいと思う。

環境省：今の話を施工業者などと話をし、詰めていきたいと思う。安全対策については重要なこ

となので、相談をさせていただきたい。

エコツーリズム推進協議会：利用をする期間というのはだいたい決まっている。みんなだいたい同じような時間に出発して、同じようなルートを通る。こちらのスケジュールをお伝えすれば、現場とは折り合えるのではないかと考えている。

環境省：タイトなスケジュールで工事をお願いしているので、土日休むということにはならないかもしれない。ただ、どこで配慮すれば良いのか、具体的なことが分かっているならば、対応しやすくなる。

エコツーリズム推進協議会：追加であるが、その日に何パーティが入るかというのは把握している。工事事務所の方にも情報を流せば現場でも把握できると思うので、そのようにしたいと考えている。

環境省：細かい調整をして、配慮をしていきたいと思う。ご理解をお願いしたい。

3) その他 (エゾシカシャープシューティングについて)

環境省：[参考資料2の説明]

観光協会：冬期利用についてだが、3月20日までやりたいと思う。

環境省：では、3月のシャープシューティングは、21日から行うようにしたい。

観光協会：一般の人も結構入っているので、大きな看板などをつけてもらいたい。

環境省：看板は、幌別のゲートと岩尾別のゲートに設置する予定である。幌別のゲートは夜間閉鎖しているので、それを開放するときに実施する職員と一緒にガードマンも入り、岩尾別に監視員として待機させる。入ろうとしても、ガードマンが「今エゾシカ駆除を実施中です」といった対応をする。実施しない日にはガードマンは岩尾別にはつかない。

しれとこ・フォーラム21：心配なところは、道路から入っていかない人もいる。自由に入っていく人がいるので、そこを心配する。違うエリアに関しても、5月まで割と山に入る人も多い。

環境省：今の指摘は100㎡の運動地のことかと思う。参考資料の4ページ、航空写真をみてもらいたい。黄色の点線が道道であるが、そこから緑の線が伸びている。緑は100㎡地の管理道となっている。ここも雪が少なくなれば、通ることができるので、道道が開いた後同じ作業を行おうかと考えている。この管理道の入口はチェーンで止められているので、入らないという前提で行おうと考えていた。ただ入る可能性もある、という今のアドバイスを受け止めて対応したいと思う。運動地でのシャープシューティングを行う予定は、表の5月のところにある「捕獲（運動地）」となっているところである。

しれとこ・フォーラム21：よそから来る人もいるので、気をつけて対応してもらいたい。

ウトロ自治会：駆除を行う時間はきまっているのか。

環境省：シャープシューティングの効果があるのは、午前中の早い時間と夕方なのでその時間に集中的に行おうと考えているが、シカの集まりぐあいによっては、昼に行くこともある。

ガイド協議会：宿泊施設に、もう少し行きたくなくなるようなものを配布してもらいたいと思う。

環境省：今渡しているポスターを売店や宿泊施設に配ろうと考えている。日付を修正して明日から配り始めたいと思う。

ウトロ自治会：ハンターは何人ぐらいいるのか。

環境省：2台の車を使用し、1台の上にハンターが一人乗り、その後ろの車がシカを回収していくことになる。打った後の血が付いた雪なども撤去していく。

ウトロ自治会：2台1チームがいくつあるのか。

環境省：1つだけ。

環境省：打たれた仲間を見たシカは、学習して近寄らなくなるので、そういったシカをなくすというのがシャープシューティングである。その場にいたシカは殲滅しなくてはいけない。逃がすシカがないようになるべく小さな群れを狙うことになる。

環境省：大きな群れを打ってしまうと、二度と来なくなってしまう。最初に説明したように、今回は実験的にやる、ということである。幌別・岩尾別に集中しているシカは知床の最大の個体群なので、それをいかに効率的に減らすかが、知床全体のシカの密度を下げる大きなカギになる。スマートディアを発生させてしまうと、計画がダメになってしまうので、そこは慎重にやっていきたい。知床岬やルサ・相泊でもいろいろ実験をしていて、そういったこともまとめて最終段階で集中的に捕ることを考えている。数をたくさん捕るということは今回重要としている項目ではない。あくまで短期集中で一気に片付けるのが理想なので、今回は試験的に行うというところを理解していただければと思う。

ウトロ地域協議会：シカが奥にはいってしまうのは心配する。

環境省：その通りである。それが無いようにするために、小さなシカの群れを全て殲滅させなければならない。銃を使うことになるので、皆様にはご協力をお願いしたい。

4) 来年度以降の開園から5月9日までの運用について

環境省：[資料1の説明]

環境省：案となっているが、改定については、基本は案1で行い、残ったものを案2で行いたい、ということである。

ガイド協議会：全部が全部、案1でやるのではなく、まとまったものだけまず変更していけばいいということか。

環境省：そういうことである。

観光協会：モニタリング計画には、何が含まれるのか。何期というのと手数料が固定だと思うが、どこまでが固定でどこまでを一年ごとに見直すことになるのか。例えば、グループ数は固定となるのか。

環境省：モニタリングで長期的に見ていかなければいけないもの、ヒグマの出没数や植生の荒廃の状況などは長く見ていく必要があるので、時間設定としては長くなるのではないかと思う。見直しをしてそれで良いということになれば、また次の3年後に見直すという形となるだろう。期間設定はまず含まれると思う。手数料についても安定するかどうかを見てみて、その中で評価をして次の第二期をやってみましょうとなるだろう。それ以外の細かいことについては、データの出方、対処の方法が決まるかどうか、などがあるので他にどのようなものがあるのかを整理するのは難しい。

ガイド協議会：大きく言って、期間と手数料を3年で見直しましょうということだろう。

環境省：そう思う。

温泉旅館協働組合：毎年シーズン後に見直しというが、何を見直すのか。

環境省：先ほどヒグマ活動期の議論をしていたが、ヒグマ活動期の運用の中にもいろいろな課題がある。部会でこう変えましょう、となったものについては、協議会で議論をして変えていくということが一つあると思う。

しれとこ・フォーラム21：協議会の回数は減っていくと思うが、定期的には行うだろう。その中で問題点はでてくると思う。料金や何期などのすぐに変更したら困るものは様子を見て、3年ごとに変更し、細かいところは一年ごとに変えていくというのは問題ないと思う。

観光協会：このスケジュールでいけば、案1で行きたいということにした方が良いのではないか。ダメだったから案2にしようというのではなく、全体の意見として案1であれば案1で行きましょう、ということで良いと思う。開園から5月9日についても、植生保護期になりましたというのであれば、平成26年からの第2期合わせて見直しをはかるとすればよいと思う。手数料についても3年間見てみて、多かったというのなら下げるという協議は当然するということになると思う。案2を考えるのではなく、案1でやるという考え方でいいだろう。

環境省：案1のスケジュールで進めていきたいと思うので、ご理解とご協力をお願いしたい。

環境省：この形で進めていくということ、この場の皆様で共有をしておきたいと思う。

環境省：小さなことについては、毎年見直して修正をしていきたい。当然、協議会も開催していくので、今後もよろしくをお願いしたい。

環境省：前回の協議会で、事務局案として植生保護期案を提示させていただいた。それに対して、観光協会さんや旅館組合さんから意見をいただいていた。協議会の最後に代案がもしあれば、ということをお願いをした。事務局から新たな資料はなく、前回説明した通りである。ゴールデンウィークの利用に関して、利用者数やヒグマ遭遇のリスク等を勘案して、お客様に対して適正なレクチャーをした上で利用していただくという植生保護期が一番良いのではないかと、思っている。それに対する、観光協会さん、旅館組合さんの回答などを聞きながら、合意形成をしていきたいと思う。では、各団体さんの協議の結果のご報告をお願いしたい。

温泉旅館協働組合：前回の協議会で、植生保護期とする前に、今年の利用の仕方を続けていったら

どうかということを経験として提案していた。前回代案があれば持ってきてもらいたいということだったが、組合の中で話し合ってきた結果、代案はないが、植生保護期にするにしろ状況を見てからでもいいのではないかと、様子を見てほしい、というのが組合での結論となった。以前の協議会の資料で検討してきたが、その中でゴールデンウィーク期のオーバーユースという文言は、私たち旅館組合としてはこういった書き方をされては困っている。平成の早い時期は一年間に180万人の利用があったが、今は120万人ほどに減っている。宿泊に関しても当時は67万人だったのが、今は43万程度となっている。旅館組合としては、どういう形でお客様を集客するかを考えて活動している。ゴールデンウィークにしてもお盆にしても、ウトロの宿泊施設が満館で収容しきれないということにはなっていない。20 数年の間に相当数の廃業や閉館もあった。したがって、たくさんのお客様を呼ぶためにどういうことをやったらいいかというのを考えている段階である。決してオーバーユースという状態にあるとは考えていない。そういう文言を使用するのは、現在の状況に適さない。違う文言にさせていただきたいと思っている。五湖の地上遊歩道から木道に上がるということがあったが、また駐車場の滞在時間が延びる可能性もあると思う。新しい使い方をする時には、収容できる駐車場の整備も合わせて行っていくことが、お客様の満足度も上がっていくことだと思っている。これから協議をしていくときの、共通の認識としてできるだけ早い時期から取り組んでいただきたい。地上遊歩道の快適な利用をする人ばかりでなく、木道だけ利用したいという人も入れないことになってしまう。そういったことも合わせて、できるだけ早く着手するという方向で進んでいただければと思う。5月9日までの代案としては、旅館組合としてはできるだけ利用調整の期間を今の5月10日からにしてもらいたいということである。今の事務局提案に異を唱えているのは私どもぐらいであるが、植生保護期にしないでほしいということが協議会の中で決まるのであれば、それに従う他はないと思っている。

観光協会：観光協会も同意しかねる、という立場でいる。手数料が徴収されることによって、観光客が少なくなるのではないかとというのが一番心配していることである。反対だという考えは、こちらの会議の中ででていた。協議会で決まるのであれば、しぶしぶではあるが同意する。いつまでも合意しないと、いろいろな問題がでてくると思う。基本的には反対というスタンスは変わっていない。指定認定機関である知床財団には、以前にも話をしたと思うが、収入についてこの協議会でやって行くのか、別に監査委員会のようなものを作るのか、考えてく必要があると思う。金額の整理をしないといけない。この間出してもらった1枚の紙では、どういう経過でどういう使い方がされているのかが不明瞭である。細かい状況を確認するためにも、監査委員会のようなものを作って、皆さんに分かるようにしていった方がいい。それで、最終的に3年後に、料金改正ができるのかどうかということも可能になってくると思う。そういう目標をもちながら、作っていただければと思う。

環境省：5月9日までの話については前回まで話を続けてきたが、去年の積み残しの議論となっていた。元々の主旨がおろそかになってしまったかな、と反省している。ヒグマ活動期の直前で、な

お客様の利用が多い時期で心配事もある。なるべく長い間地上歩道を開けて、なるべく多くのお客様に使っていただくというのは、我々の考えで変わらない部分である。あくまで多くのお客様に使っていただく、安心して安全に使っていただく、なるべく長い間開けて使っていただきたい、その中で検討した結果、お客様に手間をとらせることになるが、レクチャーをきちんと受けていただくということで、利用してもらいたいと思っている。方法が違うのかもしれないが、考えていることに変わりはないと思っている。高架木道を気持ちよく使ってもらうことも、我々の仕事の一つである。駐車場についてのご指摘はもっともで、駐車場の滞留時間が長くなっていて、容積が足りなくなってきている部分はある。正直、個人的な意見としては、拡張すればいいのではないかと考えている。お金についても環境省で出せばいいと思う。しかし、いろいろな問題がある。実際の権限の問題だけでなく、お金の問題から管理上の問題から、様々あってなかなかストレートには言えない。斜里町や北海道の前にもハードルは山ほどある。それをどうやって整理していくかということもあるので、ご理解していただいて、前向きに対応していきたいと考えていることはお伝えしておきたいと思う。「オーバーユース」という書き方が困るというのは、こちらの配慮がなかったところである。ピンポイントでオーバーユースが起こっている訳で、知床全体で起こっている訳ではない。書き方については考えたいと思う。お客様がだんだん減っているということは承知している。先ほど申し上げた通り、我々としても多くのお客様に入っていただきたいと思っている。議論にあった、3年間の見直しの中でも、毎年の見直しの中でも、いろいろなご議論をいただきながら、対応できるところは対応していきたいと思う。料金の改定についても、知床財団に報告をして協力してもらっているが、始めた今年に安くということにはならないが、少なくとも3年の見直しの段階ではきちんと見直さなければならない。今年の会計の内容についてはこちらとしても完全に把握できてない部分があった。一人の人が2つ以上の仕事をしている場合に、どうしてもお金を分けられないこともある。難しいところもあったが、知床財団にもお願いをして明瞭にできるように努力していただき、3年目の改正に向けてきちんと努力をしていただきたいと思う。ゴールデンウィークの大ループの利用については、この場でもいろいろと議論はあったが、物理的に施設管理の面から難しく、できないものはできないが、雪の状況等を勘案して柔軟に考えていくなど、なるべく早く開ける努力をしながら、お客様の満足度を上げたいと思う。単に利用調整地区制度をゴールデンウィークに延長するというのではなく、そういった努力をさせていただきたい。一つの重要な方策としてゴールデンウィークにおける植生保護期なりの対応をするということで、ご理解いただけないかと考えている。よろしくお願ひしたい。

環境省：どうこの知床五湖のサービスを上げていくか、という話だと思っている。我々は利用を否定している訳ではない。五湖の活用について行政と皆様でアイデアを出し合いながら、使っていきたいと考えている。設定は設定としてご理解いただきながら、それを踏まえてどうお客様に来ていただくか、それをこの協議会の中で話し合っていければと思う。ご理解をいただきたい。

環境省：協議会の決定には従います、というお話で、合意はできないので苦しい立場だと思うが、協議会の決定として植生保護期としたいと思っている。皆様には、地域一丸となって質を高めていくという意識を統一しながら、協議会の決定をしたいと思っているが、いかがでしょうか。

ウトロ地域協議会：去年、観光関係では観光客が減っていて、危機感を持っている。保護と利用の面で、保護を重視すると観光が低迷するのではないか。システムを作って実行しているが、もう少しPRだったり、地域を大事にしていただければと思う。町も道も環境省も、保護と利用の仕組みをプラスになるようにしてもらいたい。環境関係の人は保護を監督するような人は来るが、利用の行政関係がないと思う。五湖の冬期利用の問題にしても、どうやって静かな五湖を利用していか、というのも地域と一緒に考えてあげないといけない。一緒にやって、効果を高めていく必要があると思う。そういう意味で、なかなか言いづらい部分はあるだろうが、意見を出してもらい、協力できるものは協力してやっていきたい。

環境省：私たちは観光という言葉は使わないが、自然公園法においては、目的のところに「保護と利用」と記載されている。国民の多くの皆様に自然のいいところに来て、ふれていただかないと保護というものができないと考えているからだ。保護のためには利用していただかないといけない。利用のためには、元の資源というのをきっちり保護する必要がある。保護と利用は車の両輪だと教わってきた。環境省というと、どうしても環境保全というイメージだが、利用あつての環境保全である。だから、先ほど申し上げたように、できるだけ多くの人に利用してほしいと思っている。

観光協会：どうしても、我々は保護の方が大きいのかなと思ってしまう。駐車場の問題でも、事務局の中で、斜里町がもっと責任を持ってやってもらわないといけない。商工観光課も来ていないし、利用ということを考えた時に斜里町が一番重要だと思う。商工観光課が把握しているのか、と思う。町のスタンスに我々の意向が反映されているのか、と疑問に感じる。商工観光課にもこの場にでてきてもらいたい。環境保全課だけが五湖に関して把握しているのか、斜里町全体で把握しているのか。環境保全課だけで終わってしまって、商工観光課が何も知らないとなっているのではないか。斜里町全体で取り組んでいただきたい。協議会で植生保護期と決まるのであれば、しぶしぶではあるが従っていかなければならない。しっかりとした事務局体制を作っていただきたいと思う。

斜里町：五湖のあり方を、当然環境保全課だけが把握しているわけではない。商工観光課も把握している。駐車場に関しても、斜里町としてどういった駐車スペースの確保がいいか、ただ広げればいいということではないので、バスの運行なども視野にいれながら、取り組んでいるところである。この場に出席していないから、商工観光課が把握していないということではない。

しれとこ・フォーラム21：ゴールデンウィークに関して、レクチャーはするべきだと思う。料金は安ければいいが、植生保護期にしてもレクチャーを受けてもらった方がいいと思う。しかし、少ししか見れないのに250円かという思いはある。だから、そう思わせないような対応ができればしてもらいたい。駐車場は時間が短くても長くても410円。お客様の負担を考えると、駐車場の料金

も大きな問題だと思う。そこも一緒に考えてもらえればと思う。別件だが、手続きの料金が 250 円でレクチャーは無料ということであれば、もし高架木道だけの利用だが、レクチャーを受けたいという時にはどうすればよいのか。知床について言えば、レクチャーは受けてもらった方がいいはずだ。今の話から言うと、レクチャーだけ無料で受けることも可能になると思う。

環境省：理屈から言うとそうなる。

環境省：ビデオ映像を見てもらう、ということだけなら可能性はあると思う。ただ、そのレクチャー映像を皆さんのところに配布して、事前にそれぞれのところでレクチャーをしてくださいということになると難しい。著作権が入っている映像があるので、ビデオのコピーを作成することはできないと思う。

環境省：受けたい人が受けられるのか、というのはこれから考えて行きたい。事務的にまわるのかどうか問題になってくると思う。

環境省：建物の構造なんかも考えていかないといけない。この人は地上遊歩道に入って、この人は入らない、そういったことをどう分けるかというのがあるので、すぐには難しいと思う。今思うのは、別室や別場所で行うというような対処になるだろう。

しれとこ・フォーラム 21：受けたいという人を拒むことはできないと思うが。

環境省：拒めないことはないと思う。利用調整地区という制度の中で、その中に入る人に対するレクチャーであり予算であるので、利用調整地区を利用しない人に対しては、厳密に言えばその範囲の中には入らない。予算の目的などから考えると拒めるが、本質的にはいい話なので、それは予算のたて方とは違う部分で対応できればと思うが、実際には事務的なことで混乱してしまうなど、なかなか難しい部分ではある。

ガイド協議会：お金のことは別にして、レクチャーをできる人を養成するか何かして、事前にホテルなどで講習をできるようにしたらどうか、という話はあった。そうすれば、五湖での混雑を緩和できるのではないかと、言われていた。知床に来る人にレクチャーを受けてもらった方がいい、それが知床のスタンダードだという話であれば、ホテルなどで夜にレクチャー映像を映して説明できれば、サービス向上になると思う。できるのであればぜひやりたいと思う。ビデオの内容も見直してどんどん良いものにしていけるようにしてもらいたい。著作権の問題があるというのなら、別のものを環境省で作成するか、NHK が知床で撮影する時に、活用するという条件付きにするなど、対応はできると思う。一定のレベルのレクチャーをできる場所や人などを増やしていった方がいいだろう。

環境省：高架木道を利用するお客様へのサービスはもっと何かあるのではないかと感じている。利用調整地区の入口としてのフィールドハウスでしかなく、高架木道を利用する人は駐車場との往復しかしていない。利用する人の多い高架木道での工夫・サービスができればと思っている。

しれとこ・フォーラム 21：レクチャーだけでも見たいという魅力あるものにしてもらいたい、と

ということが言いたい。高架木道だけでなく、レクチャーも見て得したと思ってもらえるようにしてほしい。

環境省：海外の映像があり、それに著作権がある。

環境省：それについては、何か工夫ができると思う。少し考えさせていただきたい。

ガイド協議会：先ほど、できるだけ五湖の全周が利用できるように、ということ言っていたが、具体的には何かあるか。

環境省：雪が少なければということになると思う。雪が少なければ、ぬかるみになりそうなところに板を渡すなどの措置がとれるかと思う。

ガイド協議会：逆に雪が多ければ、装備がしっかりしていてスノーシューでしかいけないということで、植生に影響を与えなくなれば利用できるのではないか。

環境省：施設の話ではなくなるので、どういう整理をしていくかになると思う。

環境省：今までこの時期に全周は開けていかなかったもので、中の状況を確認してみて、どういう方法だったら利用できるかという方法を見つけていくしかないと思う。

ガイド協議会：考え方として、植生保護期だから、植生に影響を与えるからまずいということが根底であれば、雪が多い時には回れるのではないかとも思う。

環境省：その時の問題は道迷いだらう。道をどうやって確保するか、ロープをつけていくかということもあるかと思うが、知床らしくない感じがする。

ガイド協議会：ピンクテープではどうか。

環境省：さっき言ったような対応は、来年の春は限定させてもらい、再来年から行うかなど考えていく必要がある。選択肢はいろいろあると思うので、検討していきたいと思う。

ガイド協議会：シーズン前にみんなで見に行くといったことは可能か。

ガイド協議会：道に迷って安全が確保できないのは困るので、道に迷うような時は閉めていて、そうでないような時があれば、利用してもいいという考えなのか、そこがこちらとしては知りたい部分である。

環境省：今年は五湖まで除雪が入るので、見に行くことはできると思う。協議会の方で希望の方がいらっしゃれば現地を見に行くということを考えていきたい。

環境省：事務局内で議論をして、企画が立てられれば、皆様にご案内を出したいと思う。

ガイド協議会：ボランティアで除雪をやっているが、除雪をしない方が歩ける可能性が高いのではないか。ガイド協議会としては、利用できる可能性を探っていきたい。

環境省：そういったことも含めて、状況を確認していきたい。

ウトロ自治会：お願いであるが、五湖というものが地元住民にとって遠くなっている。最初に駐車場が有料になった時に始まっているが、今また 250 円や 500 円ということで、ウトロの住民にとってますます遠くなってしまっている。都会から親戚や孫が来たという時などに、ウトロに住んで

いるということが証明できるのであれば、手数料を無料にしてもらえればと思う。夏休み期間だけでもそういった対応をしてもらえればありがたい。今すぐでなくても良いが、検討してもらいたい。

環境省：ゴールデンウィークの対応についての話だが、先ほども申し上げたが、この制度を使って多くの方に利用していただきたい。一日閉めなければいけないところを半日ですませるとか、そういった対応ができるようにこの制度を活用したいと思う。開園から5月9日までを植生保護期と同様の扱いとしていきたい。ご理解をいただきたいと思う。当然3年の見直しの残り2年でここについては見直しをしていきたいと思っている。

しれとこ・フォーラム21：10月21日以降は、今後どういう風になるのか。

環境省：今回のゴールデンウィークの期間については、積み残しのものだったので、この段階で決めた。今年の10月21日以降は、ヒグマが出没して閉鎖している期間が長かった。3年間やってみて見直すという項目の一つなので、それまでは様子を見てその後で決めたい。

しれとこ・フォーラム21：一部の話で、実態がよく分からず、閉まってしまっていることに対して疑問がある。都合上で閉めているのではないか、と思っている人もいる。

環境省：閉めている間も人が張りついているので、閉めたとしてもこちらが楽になるわけではない。ヒグマの出没が続いていたから閉鎖をしていた。できるだけ開けていたいというのは当然の思いとしてある。

温泉旅館協働組合：認定手数料のことについてだが、手数料をできるだけ安くできればいいと思っている。先ほど知床財団からもっと細かい資料をだしてもらって議論をするという話があったが、それは今後どうしていくか。

環境省：私の直感としては、この場で、オープンな形でこの人の給料はいくら、というような話をすることはできないと思っている。そのような議論をするのであれば、非公開の場を設けていくことになるかと思う。

環境省：こちらとしても最終的に監督者として収支を確認しなくては行けないが、どのように公開性を高めていくかなどについては宿題とさせていただきたいと思う。知床財団に対しても、どのような記録をつけていただくかといったことも話していかないと行けない。監査に耐える会計が必要になる。積極的に対応していきたいと思う。

環境省：長時間のご議論ありがとうございました。少し無理なところがあるのは承知で2年間やっていきたいと思う。環境省だけでなく事務局として前向きに対応をしていきたいと思っているので、ご理解をいただくと共にこれからもご協力をお願いしたい。

5) その他（ヒグマ保護管理方針住民説明会について）

環境省：[参考資料3の説明]

(16:15 閉会)